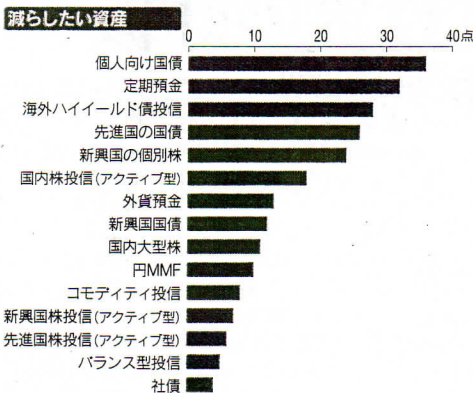
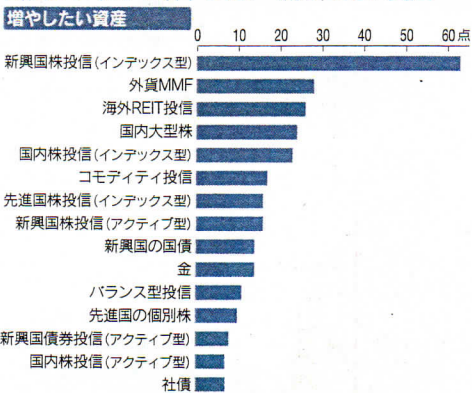


回復シナリオで増やしたい・減らしたい資産



投資したい個別株

| | |
|------------------|-----|
| ユニ・チャーム | 13点 |
| トヨタ自動車 | 13 |
| コマツ | 7 |
| ウェザーニューズ | 6 |
| 三菱商事 | 6 |
| HOYA | 5 |
| イオン | 5 |
| 川崎汽船 | 5 |
| サイバーエージェント | 5 |
| スズキ | 5 |
| ソフトバンク | 5 |
| フェローテック | 5 |
| ポーラ・オルビスホールディングス | 5 |
| 楽天 | 5 |
| 日揮 | 5 |
| 日本たばこ産業 | 5 |
| 日立製作所 | 5 |
| クックパッドなど | 5 |

株式投資 グローバルに分散

景気回復なら「新興国で稼ぐ」日本企業にも期待

F Pアンケートでは、今後3年間の世界経済が「回復する」と予想した人の比率は4割ほど。足元では米国をはじめとして景気減速を示す指標が相次ぎ、世界的に株式が売られている。それでも新興国の需要増などを背景に緩やかな回復が持続するとして、「リスク・リターンの高い資産」を増やしたいという意見が多かった。足元で進む円高を逆手に外貨建て資産を増やしたいという意見も目立つ。

世界経済の回復シナリオを描くF Pの間で、増やしたい商品の首位になったのは新興国株のインデックス投信。停滞・悪化シナリオでも1位だった商品だ。カン・チュンド氏は「長期的には新興国がけん引し、世界経済の成長率は上昇する」と指摘。「過度なイン

フレ懸念がやわらげば、他の資産クラスより高いパフォーマンスを期待できる」と神戸孝氏は話す。海外株の関連ではこのほか、先進国株のインデックス投信が7位に入った。グローバルにも幅広い地域分散が必要という指摘があった。

「新興国で稼ぐ力がある」（北原奈緒美氏）として日本企業に期待する回答も多く、国内大型株が4位に入った。国内株のインデックス投信を挙げた回答者などからは、足元の円高が一服して円安に反転することを前提に、「国内株式は外せない」（小林治行氏）との意見もある。アクティブ型の国内株投信を選んだ三輪鉄郎氏は「日本株は割安。中小型のバリュー株で運用する投信を購入した」という。

投資したい個別銘柄でも、新興国で積極的に事業展開する企業が並んだ。首位のユニ・チャームは中国やインドネシアの需要拡大を追い風に4〜6月期も増収増益を確保。「グローバルなブランド競争力」（岡村聡氏）を確立した点を評価する声が多い。同点首位にトヨタ自動車が並び、3位はコマツ。成長シナリオ下では「新興国市場で活躍する先進国のグローバル企業が優位」（神戸氏）という。

増やしたい資産で2位になったのは外貨建てMMF（マネー・マーケット・ファンド）。各国の短期金融市場で安定運用する投信の1つで、原則いつでも換金できる。売却して得た為替差益は非課税扱いとなるなど、税制面での利点もある。円高局面の今、為替差

益を狙ううえでシンプルでわかりやすい商品とみられている。中でも豪ドル建てのMMFを挙げた内山貴博氏は、「リスクをできるだけ抑え、為替差益と高金利を重視する場合はMMFで運用したい」という。このほか3位の海外REIT投信は「利回り」と為替差益を享受できる時期にある」（伊藤亮太氏）という。

減らしたい資産としては1位に国債、2位に定期預金と、低金利の商品が並んだ。今後は「金利上昇リスクが高まる」（岡村聡氏）、「利率が低すぎる」（村川賢氏）といった声が多い。3位は海外ハイイールド債投信。リスク志向が高い回復シナリオを選んだF Pの間でも不人気で、「分散投資では株式の組み入れでリスクをとるので、守りの資産としての債券への投資にあえて高いリスクをとる必要はない」（村岡里香氏）という意見があった。欧州の債務問題を意識して先進国通貨建ての国債も不人気だった。

運用のポイントを聞く

海外資産 流動性に注意 花輪陽子氏



東日本大震災後、国内資産に不安を覚えた個人の方々から、「もっと海外資産を増やした方がいいのだろうか」という相談を多く受けた。一般にリスクが高い海外資産で運用する投信が大人気だが、焦って安易に投資することだけは避けたい。現在のように、世界経済が不安定な局面にあるときは、いざというときに適正な価格で売却できるのかどうかが大切だ。商品を選ぶ際には、投資先の市場が成熟しているか、売買に厚みがあるかどうか、「流動性」

を重視すべきだろう。長期投資はリターンも大きいのが、その分プレも大きくなる。投資したままほったらかしにするのではなく、重要な経済指標を確認し、機動的に動けるようにしておきたい。海外投資なら先進国全体の株価指数に連動するETFなどが流動性の観点から有効。原油高や食糧高が続く可能性があるためコモディティ投信も候補。国内資産はインフレに備える意味でも個人向け国債の10年物の変動金利型を選ぶ。

投資の全体像 常に把握を 前川貢氏



投資で大切なのは、保有する資産全体の状況を常に把握することだ。変動幅の大きい資産をポートフォリオに1割しか組み入れていない場合でも、その資産が値下がりすると、個人投資家は1割の資産に振り回されてしまうことが多い。リスク資産はどれくらいの期間そのままにしておいていいのかなど、初めに投資する時点でよく考えておくことが重要だ。最も投資したい資産として国内大型株を挙げた。割安感のある銘柄が多い

からだ。銘柄を選ぶ際には配当利回りを目安の1つにしたい。減らしたいのは新興国の個別株。株価が割安かどうかなど物差しがない人には勧めない。円高が進む今、個人的には円資産から外貨資産に移す好機だと思う。投資したい通貨としては豪ドルを挙げたい。豪ドルは今では外貨資産としては主要な投資先の1つに位置付けることができる。新興国通貨に投資するなら5〜10年先にその通貨がどうなっているかを考えてみるのがいいだろう。

■調査の方法
ファイナンシャルプランナー（F P）100人強に対し、インターネットなどの手段で調査表を送付し、回答を得た。調査期間は7月15日〜8月1日。今後3年間的前提とする世界景気の見通しを「回復」「停滞」「悪化」について聞き、自身で投資する場合にどのような資産を選ぶかなどを聞いた。

増やしたい・減らしたい資産は1位を5点、2位を4点、3位を3点、4位を2点、5位を1点、投資したい株は1位5点、2位3点、3位1点、投資したい・注意したい国（通貨）は1位3点、2位2点、3位1点とし、合計得点をランキングした。
■F Pアンケート回答者
新井達弥、荒川雄一、石川美由紀、和泉

昭子、磯隆司、市川雄一郎、市田雅良、伊藤謙、伊藤泰人、伊藤亮太、井戸美枝、井上信一、井上大輔、内田まどか、内山貴博、大竹のり子、太田宏伸、岡成一、岡村聡、岡本典子、尾崎大、垣崎恵美、加藤恵子、亀谷保孝、神戸孝、カン・チュンド、北原奈緒美、紀平正幸、國場弥生、栗本大介、小関隆康、小林治行、式町みどり、吹田朝子、杉井克彦、高津幹

雄、高山一恵、竹下さくら、武地義治、田畑貴行、塚原哲、寺井昭仁、中里邦宏、野尻美江子、長谷川浩、花輪陽子、浜田裕也、春木良雄、菱田雅生、尾藤峰明、平野泰嗣、深野康彦、福田啓太、古川悦子、古川みほ、前川賢、馬塚雅子、益山真一、光森司、三村明、三輪鉄郎、村岡里香、村川賢、村瀬由美、安井敏夫、山内伸介、山副耕一（敬称略、50音順）